

# 子育て体験インターンシップ。

## ～みんなで育児をする“みん育”の時代へ～

中央大学総合政策学部4年 高橋 康央さん

共働き家庭で子育てをするインターンシップ(就業体験)に子ども好きな中央大学男子学生が挑んだ。同時期に取り組んだ学生は16人、うち男子学生は1人だった。子育ては女性と思いがちだが、時代とともに考え方が変わっている。中大総合政策学部4年の高橋康央さんがその人で、「子育ては自分も成長できます」と体験談を話してくれた。



元気なY君、食事中でもハイポーズ

### 5歳男児といっしょ



子育てインターンシップとは、共働きの家庭に入って1日約3時間、学生2人1組で子どもを「お預かりする」。子どもを一人にさせないためだ。高橋さんらは5歳男児と対面した。親御さんが帰宅する夕方までの3時間。子どもは「お兄さんといっしょ」だ。

「夕飯を作って一緒に食べる。料理はしたことがなかったのですが、このインターンシップを通して少しできるようになりました。食事はご家庭が用意してくれます。“カレーを作ってありますから温めてください。きょうは時間がないから保育園の帰りにスーパーで買い物をして肉じゃがを作って”というように」

「作る時、味は子ども用に薄味にします。たくさん食べてほしいので、子どもの口に合わせてジャガイモやニンジン小さく切る。子どもが苦手な野菜でも“ほんの少しこれだけ食べてみようか”とアプローチする。食べて笑顔を見せてくれるとすごくうれしいですね」

子どもは嫌なもの嫌いと、対人関係に容赦しない。大人が見せる気配りもない。

「自分がしてほしいようにします。嫌がることでも、どうすればしてもらえるか工夫します。これは自分自身を成長させます。きっと社会に出ても役に立つと信じています」

子どもと正面から向き合う。夕方には子ども向けのテレビ番組が毎日2時間ほどあるが、テレビに子育てはさせない。

「私たちがいるからこそできること、一緒に遊ぶ、このことを重視しています」

月に1度、インターンシップ仲間との情報共有会を開く。おもちゃでの遊び方から料理まで子どものための有意義な時間づくりがここからも生まれる。

### きっかけはいとこ



高橋さんは10歳のころから、いとこの3歳男児、1歳男児と遊んできた。その兄弟の兄が中学1年になった今でも良好な関係が続いている。

「祖母の家でいとこの2人と遊んだことがルーツですね」

もともと子どもが好きだった。子育てインターンシップはツイッターで知った。「スリール」(本社・東京、堀江敦子社長)という会社を見つけ、1か月間の研修を受けた。同社作成のテキストで座学。保育

士などの有資格者で現場実践を重ねた講師から具体的事例に基づいて教えられた。子育て体験研修は4回、訓練を受けた先輩学生に学んだ。

同社は「家庭と学生が力になりあうコミュニティ」を目指し、「子どもを看てほしい家庭」と「ワーク&ライフを考えたい学生」をつなげて、「お互いを笑顔にするコミュニティを形成する」としている。

学生は「働くこと」と「家庭を築くこと」を肌で学べる。子どもを看てほしい家庭は、学生に3時間任せすることで仕事に専念できる。夫婦の時間をより円満にすることもあるという。親がリフレッシュすることで、また新たな気持ちで子どもに向き合える。笑顔に囲まれる子どもは幸せ。人見知りも減ったという。

### 学生は無給



学生は無給だ。交通費の支給だけで3か月、子育て体験をする。

「アルバイトではありません。目的意識を持っている学生が集まってきます。仲間が増えました」と高橋さん。真剣な表情のまま、こう続けた。

「子どもが好きで一緒に遊ぶ機会がほしい程度で始めたことが、共働きをし

つつ子育てをする難しさを身をもって知ることとなりました。なによりも子どもはかわいい、子育てを通して自分自身も成長できます。それが子どもを持つ前に分かりました。非常に貴重な体験ができました」

子育ては夫婦でするもの、時には学

生の手を借りながらという「みんなで育児」(みんな育)の意識が芽生えつつあるようだ。

社内向けにこのほど「イクメンハンドブック」を作成したのは日本生命で、企業でも男性の子育ての関わり方や育児休暇の取得などへの理解が求めら

れている。「子育てを通じて時間の管理や対話する能力が高まる」と業務上のプラス面も見出されている。

子どもに優る宝なし——山上憶良が万葉集で詠んでいる。『銀(しろがね)も金(くがね)も玉も何せむに優れる宝子にしかめやも』

## インターンシップ・ダイアリー

### 5月上旬

「スリール」(堀江敦子社長)のワーク&ライフ・インターンシップ活動初日。同じ時期に入った仲間16人と一緒に子どもさんをお預かりする事前研修の始まりだ。保育士などの研修を元にしたスリール独自のテキストで、子どもとの接し方を習う。子どもは年齢ごとに接し方が違うようで、人形を子どもに見立てて、おもむつの替え方、ミルクの作り方などを学ぶ。トラブル対処法の指導も受けた。この研修で不安が少し減った。

### 初顔合わせに緊張走る

### 5月中旬

担当する初めての子どもさん・Y君のお預かりに入る。ワーク&ライフ・インターンシップ3カ月経験の先輩学生と一緒に保育園へ。Y君を迎えに行く途中、接し方のポイントやきょうしければならないことなどを教えてもらう。Y君との初顔合わせに緊張した。先輩がうまく取り持ってくれてスムーズに仲良くなることができた! 保育園でお迎えをしてY君の家へ。Y君の母親が仕事を終えて帰宅するまでの3時間、3人で楽しく遊んだ。でんぐり返しの練習をして、レゴ(玩具)で遊んだ。

### 名前を呼んでくれた

### 5月下旬

お預かり2日目。先輩と一緒にY君宅の最寄り駅で待ち合わせをして保育園へ向かう。玄関でY君が勢いよく出てきてくれて、「やすく〜ん」と名前を呼んでくれた! 家に帰る道すがらY君は虫や植物に興味津々。あちらこちらで立ち止

## 研修で不安払しょく



Y君やパートナーのCちゃん(右端)とレゴで遊ぶ

まる。大人の足で15分の道のりを1時間かけて歩いた。きょうはY君がお風呂に入る日だ。実践しながら先輩に教えてもらう。シャンプーでいろんな髪型を作り、楽しみながらY君をお風呂に入れることができた。我々は、袖口をまくる程度で服は脱ぎません。

### うまくいかない

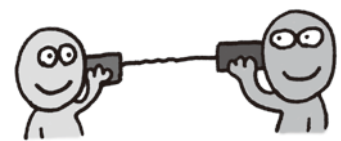
### 6月上旬

6月でワーク&ライフ・インターンシップが代替わりして、きょうから私と新パートナーによる組み合わせでY君をお預かりする。お迎え、お風呂、ご飯づくりで苦戦したが、Y君と空箱で作ったボウリングをして、きょうも楽しいお預かりになった。スムーズにいかなかった点をお預かり終了後に提出する日報に書くと歴代先輩がアドバイスをしてくれた。

先輩とはこんなやり取りがあった。

「お風呂に入ってもらいたいとき、Y君は遊びをやめません…」

「そういうときは限定作戦で乗り切ってください。例えばボール遊びをやっていてお風呂に行かないと言ったら「お風呂から上がったら、またボール遊びをしよう」。あるいは「あと5回ボールを投げたら、いったんお風呂に行こう」。「さっ」と入って、またいっぱい遊んじゃおう」。こんなふうに声掛けをしてみたら、きっとY君はボールを



1回、2回と数えながら投げると思います。どうしても困ったら、この限定作戦を試してみてください」

ありがたい助言を生かし、今回は改善しようと決意した。

### 家まで競走だ

### 6月下旬

保育園からの帰り道、Y君と競走した!

家に着くとパートナーのCちゃんがお風呂の準備をしてくれていたの、Y君とミニカーで遊んだ。彼女がそのままY君の入浴を手伝った。晩ごはんは焼きそばを作った。先輩からのアドバイスや月に1度行われる同期メンバーとのミーティングで、お預かりをスムーズにするポイントを学んだせいか、最近はパートナーとの役割分担ができて、効率のよいお預かりになっている。効率のよさはY君と遊ぶ時間を増やす。週2回のお預かりが楽しくて仕方がない。

### ミスした

### 7月上旬

パートナーのCちゃんが都合で来れない日。同期の仲間へヘルプを頼まなくてはならなかったのだが、直前まで忘れていて、Y君のご両親に心配をかけてしまった。Y君のお預かり自体は同じ遊びにでも毎回少し工夫を入れて遊んだり、笑ったりと変わりなく楽しい。しかし、ご両親に心配をかけないという大前提が疎かになっていた。今後はY君に楽しんでもらうだけでなく、ご両親にも安心してもらえるようなお預かりをすることを決意した。

# 子育て体験インターンシップ。～みんなで育児をする“みん育”の時代へ～

## 肉じゃが作った

### 7月下旬

Y君が「肉じゃがが食べたい」と言っていたのでご両親に提案。保育園へお迎えに行く途中で材料をそろえた。これまでろくに料理なんて作ったこともない私が今ではチャレンジする気持ちになっている。肉じゃがはY君にも手伝ってもらい、みんなで楽しく作ることができた。調理中、大きなコンニャクをつまみ食いするY君がかわいかった！ ご両親にも食べていただいた。最近のご両親との交流も少しずつできるようになり、より楽しいお預かりになっている。

## 笑顔の演奏会

### 8月上旬

みんなでクッキーを作る。ご両親に提案して、今回もご了解をいただいた。つまみ食いが好きなY君がクッキーの生地を食べようとして、私たちを慌てさせたり、みんなで笑ったり、こんな一幕も楽しい。クッキーが焼き上がるのを待つ間、Y君が私たちにおもちゃを持ってきた。「演奏会をしよう」という。おもちゃを楽器に見立て、みんなでトロクの曲を演奏した！「お母さんにも見せてあげよう」ということで、帰宅する直前、部屋を真っ暗にして待機。「ただいま」の声と同時に、

ふすまを開けて演奏スタート。たくさん笑った、みんな笑顔だった。

## ラストの日

### 8月下旬

1週間に2回入ったY君のお預かりもきょうで最後。8月からは次の代のワーク&ライフ・インターン生のお預かりが始まる。今度は私が先輩と呼ばれる。「子どもが嫌がることをいかにスムーズにやってもらうか」を真剣に考えて取り組むことは、おそらく社会に出て働き始めても役に立つことだと感じている。



## 素直に想いを伝える力で、国際交流も?!

スリール 堀江 敦子社長

高橋くんのこのインターンでの変化は、自分の素直な気持ちを伝える自信を身につけたことではないかと思います。もともとIT講座などの活動も積極的に実施していた高橋くん。正直、最初の説明会では斜に構えた印象がありました（笑い）。そんな彼の一番のターニングポイントは、家庭とのコミュニケーションだったと思います。相手の立場や状況を考えたうえで、自分の想いやしていることを伝える重要さを痛感したと思います。

このことを経て、積極的に自分の想いを伝え、肉じゃが作りを達成し、そのうえで子どもにもマ

マさんパパさんにも喜んでいただいたことにより、「自分を開示し、積極的に行動することが、相手との信頼関係に繋がる」と、身をもって感じたのだと思います。

その後の彼は海外を飛び回り、その場で現地の人々の家にホームステイし、家族のようになっていっています。これも、この体験から人とのコミュニケーションに自信を持ったからではないかと思っています。

もともと素直で何でも吸収しようという彼の姿勢が、成長を加速させたのでしょうか。社会人になってからの彼がまた楽しみです。



マレーシアの小学校児童と一緒に



アンコールワット遺跡群で高橋さん